

第5図-2は台風が南岸沿に東進した場合と関東に上陸して本州を横断し日本海に出た場合で、いづれも本州附近で台風は衰弱した。

第9表

年月日	最大風速		日降水量		10m/s以上の強風期間	
	清水越	前橋	清水越	前橋	清水越	前橋
22. 8. 6	S 16.0	NNW 6.8	0.4	11.3	6日22時	なし
〃 7	S 17.7	ESE 4.5	69.1	16.8	~7日6時	なし

はじめの例は本州南岸に前線があり台風は北上してこの前線上を移動したから、前線の影響も入っていて降雨期間は明瞭でないが、第9表のような状況であった。

本州を横断した例では第10表のようになっている。

第10表

年月日	最大風速		日降水量	
	清水越	前橋	清水越	前橋
20. 8. 23	S 22.2	ESE 12.6	0.8	17.4

学 会 消 息

1. 国際気象通報式の修正

WMO (世界気象機関) の第10回執行委員会は、シノプテック気象委員会第2回会議が勧告した通報の修正を承認した。この修正のうち船舶に対する気象通報式は、1959年1月1日から、その他の通報式は1960年1月1日から施行される。

2. 第3回IMO賞は英国のGold氏に

IMO (国際気象機関, WMOの前身) の基金をもとにして設けられたIMO賞は気象学および国際的気象協力の発展に貢献した人に贈られる。第10回執行委員会の決定によって、第3回受賞者はイギリスのEreest Gold氏にきまった。同氏は1909年に大気等温層と大気放射に関する論文および成層圏形成の理論的説明を発表している。なお賞の内容は賞状、直径53mmの14カラットの金牌、および年金、1,200ドルの由。

3. 東南アジア水理セミナー

WMOとエカフエ(東南アジア経済委員会)の共催で、明年バンコックで水理セミナーが開催される予定。会議では水理観測業務の質的向上、経済計画への協力等が討論される。

4. 第2回第2地区協会はカラチで開催の様様

第2アジア地区協会の第2回会議は本年9月上旬パキスタンのカラチ市で開かれる公算が大きくなった。

5. 岸保氏渡米

本学会の岸保勘三郎理事は電子計算機の研修、と研究の目的で6月29日ワシントンに向け、羽田を発った。

6. 川畑幸夫氏モスクワに

7月30日から8月9日にわたって、モスクワで開催される第5回CSAGI (国際地球観測年特別委員会の略, IGYの指導を行う) 総会に、日本代表の1人として、本学会員川畑幸夫氏が出席する。なお会期中に行われる「IGY放射能資料センター打合せ」にも出席する。

7. 気象庁予報部に長期予報管理官

気象庁予報部に5月24日付で長期予報官がおかれた。前理事高橋浩一郎博士が初の同管理官に任ぜられた。

8. 科学労働者協会のPek Nam Un氏から書状

朝鮮民主人民共和国の科学労働者協会会長Pek Nam, Un氏から本学会理事長島山久尙氏にあて、書状があり、「南朝鮮における合衆国陸軍の暴行についての資料」というパンフレットが送られて来た。

本学会創立75周年 記念論文集 寄贈に対する諸外国からの礼状 (2)

ニュージーランド気象局長バーネット氏からの手紙

Meteorological Office,
P. O. Box 722,
Wellington,
NEW ZEALAND.
9 June 1958.

Dear Dr. Hatakeyama,

May I offer the congratulations of the New

Zealand Meteorological Service to the Meteorological Society of Japan on attaining its seventy-fifth anniversary, and on the fine Anniversary Volume of the Journal.

We wish the Society continued success in the future.

Yours sincerely,
M. A. F. Barnett
DIRECTOR.